



このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。
架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

架け橋プログラム だより

Vol.33に引き続き、Vol.34でも、嶋野先生のお話から、**架け橋期で大事にしたいこと**をお伝えします。今回は子どもの**「見取り」**についてです。見取りを深め、一人ひとりの成長につなげていきましょう。

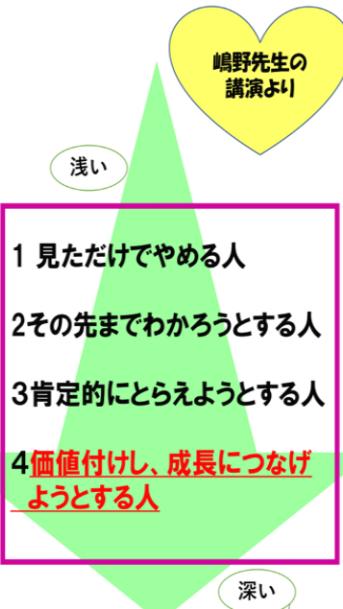
見取りとは

★見取りとは、外在化、顕在化している事柄をとらえ、これをもとに、内在、潜在して事柄や心情を推しはかり、個別、最適にかかわっていくこと。

★見取りには浅い・深いがある

浅い・・・見たらわかる、と思っていると見取りは浅い。見ただけで、あっ、そうかと終わりにすると見取りは浅い。

深い・・・子どもや子どもの行為を肯定的に見ようとする。見ただけではわからない、子どものあらゆる面を見ようとする。..



島野先生に注目！
どこで子どもを見ているでしょう。



子どもの中に入つて、そばに行って、子どもの息遣いや体温を感じながら見えてくることがあります。離れていては見つけられないことが、そばに行くことで伝わってきます。見えてきます。だから、私は、子どものそばに行って子どもたちを見るのです。

見取りの営み

子どもへの興味・関心

興味・関心をもって子どもとかかわる

事実をとらえる

言葉、行動、表情等をとらえる

保育者・教師の
非認知能力は
見とり力をあげる

推測・推量・推察

とらえた事実を推しはかる

解釈

物事や人の行為などを受け止め、解釈する。その意味を考える

島野先生の
講演より

